

大阪府立八尾支援学校(大阪府)

昨年度の支援学校入賞が取り組みの後押しに!総務大臣賞を受賞

★標語作成を生徒の当事者意識を高める機会として活用

本校では「基本的な生活習慣等の基礎的な力や豊かな人間性など、心とからだの健康をめざした『生きる力』を育む」を教育方針に掲げ日々支援を行っています。その中で、GIGAスクール構想以降学校や家庭でスマートフォンやタブレット型端末を使う機会が増え、安心・安全にインターネットを使うための学びも大切な要素となってきました。実社会においてもインターネット上においても、自他共に尊重しあって生きていく社会をつくっていくために、皆が当事者であるという意識をもっと強く持つ必要があると考えグループで協力して標語を作成し応募するに至りました。

★情報と国語の学びを融合し、自身の思いを作品で表現

情報モラル教育としては、総務省や文部科学省が公開しているコンテンツやリンクを活用しながら考えを深めていったり、外部講師を招いてスマホ・SNS安全教室を開いてもらったりする取り組みを行っています。今回の標語作成では、情報の授業で学んだ情報モラルに関する考え方を基に、国語の授業で学習した「押韻」「比喻」「倒置」などの表現技法を活用していくように展開を行いました。「自分たちがどのような社会を作っていきたいか」「どのようにすれば自分の思いが伝わるのか」を深く考えながら一生懸命取り組んでいる姿が印象的で、今後の学習活動への意欲喚起にも繋がっていると感じています。



★受賞の喜びを共有し、新たなステージへ

今回の標語に限らず様々なコンクールに応募する機会がありますが、現状では高等学校主体の取り組みが多く募集条件と学習段階が一致しにくい傾向にあるように感じます。そのような中、本コンクールにおいては昨年度支援学校が入賞している点が大きな後押しとなりました。総務大臣賞受賞から一カ月以上たっても色あせることなく学校の中は喜びで溢れています。この喜びと興奮を今後の学習に昇華していく試みの一つとして、今回表彰された標語を一人一画ずつ書いて全員で表現作品を完成させる「リレー習字」を行いました。作成した作品は校内に掲示し、他生徒や保護者に触れてもらうことで標語に込めた意識の共有を図っていききたいと考えています。



総務大臣賞

中傷に 大中小は ないでしょう

北海道石狩南高等学校(北海道) 標語作成者:秋野 智柊さん

情報モラル教育を通じ社会貢献できる人材の育成を

★情報モラル教育のまとめとして標語を活用

本校は、情報モラルの授業のまとめとして過去より何度も応募しており、2020年度には学校部門総務大臣賞をいただいております。応募のきっかけは、情報モラル教育のまとめとして出来ることを探していた時にホームページを拝見したことです。また、コンピュータ部では「コンピュータを学ぶことで社会貢献する」を一つの軸として活動しています。その一つとして「情報モラルを学び、多くの人に伝える力を養う」という理念のもと、コンピュータ部の生徒も参加した取り組みとなります。

★標語作成を「共感を得る伝え方」の学びの場に

標語作成を指導するにあたり「自分の身近にある題材を使う」ことの大切さや「共感を得る伝え方」などを大切にしています。また、模倣ではない自分自身の考えを重視するよう伝えています。生徒はWEBに掲載されている過去の入賞作品を見て「思った以上に面白い!」と反応し、創作意欲が刺激され、自分なりに考え楽しみながら標語を作成していました。



★主体的な学びを通じて、自ら創造する生徒を育成

炎上やネットでのいじめなどはほとんどなくなりましたが、ネットの依存については深刻な状況にあると思います。また、生成AIとの上手な付き合い方も考えなくてはいけないと感じています。本校は文部科学省のDX推進校となっており、新しい機材やAIなどを使い教育を進めていく中、情報モラルに関してもステップアップしていく必要があります。今回の受賞は生徒の意識を高める良い機会となりました。今後も「使いながら学ぶ」という本校の基本的な考えを継承しつつ、生徒の主体性や創造性を育めるよう取り組みを進めていきたいと思っています。



北海道総合通信局長賞

確かめて ホントの言葉 デマとウソ

山形県立ゆきわり養護学校(山形県) 標語作成者:金子 衣咲さん

山形県で初入賞!日々の学びが形に

★冬休みの宿題として活用。情報モラルを考えるきっかけに!

冬休み前に中学部・高等部生徒、保護者を対象に「情報モラル研修」を実施した際、研修後の課題として冬休みの宿題に標語作成を取り入れたのが応募のきっかけです。生徒にとっては初めての取り組みでしたが、特に戸惑うことなく標語づくりと向き合ってくれたと感じています。「先生、すごくいい作品ができたよ!」という生徒もいれば「考えるのが大変だった」と話す生徒もあり、反応は様々でしたが全員で情報モラルについて考える良い機会になったと感じています。



★日頃の取り組みにより安心安全な利用環境を構築

標語以外の情報モラル教育としては、GIGAスクール構想以降情報モラルに関する問題や家庭での悩みが増えているため、効果的な教育に向け3年ほど前から毎年山形県警察本部より講師を招き情報モラル講話を行っています。それにより、生徒たちは情報モラルについてより深く理解し、保護者の方々も安心して子どもたちのICT利用を見守ることができるようになったと感じています。

★校内が盛り上がり、情報モラル教育が加速

今回の取り組みで「東北総合通信局長賞」を受賞しましたが、局長自ら当校にお越しのうえ表彰いただき、また、地元の山形新聞に記事を掲載いただくなど私たちが想像していた以上に大きな反響がありました。学校としても、校内に入賞作品が掲載されたポスターを掲示するとともに表彰式のビデオメッセージを生徒と一緒に見ることで、生徒や教員から「こんなにすごい賞をもらったんだね!」という声がいくつも聞こえてくるなど、校内全体の意識の高まりを感じることができ、今後の情報モラル教育への大きな手応えを感じております。



東北総合通信局長賞

SNS 優しい言葉を かけようね

常陸太田市立誉田小・学校(茨城県) 標語作成者:深沢 杜杏さん

児童の主体性を高め、可能性を引き出す教育を推進

★児童自身が考えるきっかけとして標語を活用

最近になり児童間のスマホやオンラインゲームによるトラブルが増えてきており、「児童自身に具体的な問題について考えるきっかけを与えたい」と考えていたところ、タイミングよく標語の募集案内が届いたことが取り組むきっかけとなりました。今回は4年生から6年生までの授業で取り組みましたが、皆が楽しみながら標語を作っていたことが印象的でした。

★情報モラル教育を通じ、児童の成長をサポート

毎年5、6年生および保護者を対象に外部講師を招き情報モラル教室を行うなど、情報モラル教育にも力を入れ取り組んでいます。そのような中、今回の受賞でより多くの児童の情報モラル意識の向上が図れ、とても有意義な取り組みになったと感じています。本校は、教育重点目標として「児童が考え、調整しながら活動していくための指導を工夫・充実し、児童の向上心を高める」を掲げ、すべての教職員が目標達成に向け取り組んでいます。これまでの教育活動の中で子どもたちの主体性が高まった結果、受賞につながったと考えています。活動以降、SNSやネットにおけるトラブルが減っていることを実感しています。



★地域から信頼される学校をめざして

今回、関東総合通信局長賞を受賞し作成した児童は大変喜んでいました。全校児童を集めた場で表彰するなど学校全体で喜びを分かち合いました。本校では情報モラルに限らず、いじめを無くすことを目的に、毎年「人権集会」を開き人権標語を作成するといった取り組みも行っています。これからも様々な活動を通じて、地域から信頼される学校となるよう取り組んでいきたいと思っています。



関東総合通信局長賞

スマホより 家族との時間を 大切に